

ふくおか地域づくり

報告：ふくおか地域づくりフォーラム(2011.3.6)
第3回ふくおか地域づくり活動賞



輝く個性を持って緩やかに繋がろう！

ふくおか地域づくりフォーラム

～これからの連携について～

□主催：地域づくりネットワーク福岡県協議会及び地域づくりネットワーク福岡県協議会福岡ブロック会議
(事務局：福岡県企画・地域振興部広域地域振興課) ◇平成23年3月6日(日) 於：福岡国際会議場



□会長あいさつ
地域づくりネットワーク福岡県協議会 会長(県企画・地域振興部長)佐藤 清治 氏



□開催地代表あいさつ
地域づくりネットワーク福岡県協議会 福岡ブロック会長 稲外 積 氏

このフォーラムは、地域づくり活動を実践している方々の情報交換や交流を目的として開催。当日はNPOや行政等から約100名が参加。開会後第3回ふくおか地域づくり活動賞表彰式(6ページ参照)が行われ、その後、ガーデンデザイナーである阿部容子氏の基調講演、5人のブロック代表によるブロック別活動状況の報告。さらに2人のパネリストによるパネルディスカッションと続き、終了後は交流会で名刺交換や熱い意見交換が行われ、大いに賑わった。

《基調講演(概要)》

●基調講演

阿部容子 氏

(有)かたくり工房

ガーデンデザイナー

テーマ：活気を生み出す

私は今、岐阜県に住んでいるが、中学時代は久山町で過ごした。ガーデニングを通じて、まちづくりや地域活性化に深く関わっている。ガーデニングには様々な視点が必要で、いろんな人やまことがわかっていなければ満足いくものではない。多様な人や行政等との連携も重要。



③コンセプトが重要

リサーチした内容にもとづき、コンセプトを導き出すことも重要。ニューヨークのマンハッタンの街中にある芝生公園では、犬と人間が利用するスペースを完全に分離。動物の毛で、ぜんそくや発作、皮膚炎を起こす人がいる一方、犬も小さな子どもに強く抱っこされるとストレスを感じ、噛みつくことがあるから。ガーデニングを楽しむのではなく、60℃を超える真夏の温度を下げるために、天然芝で緑化された屋上庭園がある。ニューヨークには子どものためだけの植物園がある。すべて子どもの目線で作った公園で、大人は入れない。赤色の花しか使わない庭。スイスにはかぼちゃに拘った町がある。温度低下、子ども、赤、かぼちゃなど、明確なコンセプトを持つことが大切。

④最後は人で、勇気を持って失敗しよう

すべての障害をクリアした施設づくりは不可能。それらを補うのは人間。しかし一般的に日本人は人を傷つけることが怖い。怖くて声をかけられない。何もしなければ後悔する気持ちは日増しに大きくなり、何かをやって後悔してもそれは年月とともに忘れていく。みなさん、勇気を持って失敗しましょう。私はたくさんの失敗を繰り返してきたが、今ではそれが良い経験となって、多種多様な人々とふれあい、連携するときに役立っている。自分の常識がいかに狭いか、海外に出かければよくわかる。各組織や団体も自分たちの常識だけにとらわれず、個性を持っていろんな異業種とコラボし、新たなものを生み出してほしい。それが連携による地域づくりというものだ！

①徹底的なリサーチとリサーチから深く読み取ること

ガーデニングでは、町や周辺地域に関する事前調査を必ず行う。個人の庭の場合、個人情報までも詳しくリサーチする。家族年齢、病気の有無、職業までも細かく聞く。その庭を管理するのは主に誰なのか。管理者がおばちゃんであれば、身体の都合にあわせた庭の管理を考える。近い将来、駐車場が必要性ではないかなど、10年後を見据えた庭づくりの視点が必要だ。肝臓を患っている家族がいれば、可能な限り消毒を押さえる管理方法が求められる。私が住む町の隣の町は、りんご、なし、柿が特産。個人の庭にはカイヅカイブキが使えない。町の条例で規制されており、果樹農家にとっては迷惑となるからだ。街路樹をよく見れば、風向きがわかる。農地を見れば、どんな農作物が適しているかがわかる。自分の足で情報を得ることが大切。

②欠点はうまく付き合うと強力な個性に変身

そこに住んでいる人が思っている一番の欠点を探す。日当たり悪い、水はけが悪いなど。欠点と長所は背中あわせ。欠点をうまく活かすことで、長所となって生まれ変わることがある。ゴールデンウィーク空の北海道帯広では、砂嵐が一月半程続く。これを体験し、北海道のイメージは強烈なものとして残った。ブログでみんなに知らせたところ、多くの人がこの様子を写真に収めようと現地に出かけた。まさに欠点を売り物にした商売だ。また私の町には、「たこ焼き全国大会」で、全国で5番目に「まずい」と評価されたたこ焼き屋がある。店内にはそれを証明する賞状まで飾っている。今では、そんなまずいのなら食べてみようという人々がなんと長らの列。欠点をどのように魅力づくりに活かしていくかがポイント。



●パネルディスカッション

〔パネリスト〕

阿部 容子 氏 (有)かたくり工房 ガーデンデザイナー
たいら 由以子 氏 (特)循環生活研究所 理事兼事務局長
〔コーディネーター(福岡県地域づくりコーディネーター)〕
今泉 重敏 氏 (株) まちづくり計画研究所 代表取締役
原賀 いずみ 氏 北九州インタープリテーション研究会代表



福岡ブロック会キ

2度の会キ実施
今泉氏のコーディネート

情報発信
について

連携について

① 39団体、2度会キ実施
② 直轄(中間)地区の車の移動
③ 北九州歩きを実施後
④ 直轄(中間)地区話し合い
音楽、食などイベントで紹介
資源循環型をいかに
具体的にいかす

① 39団体、2度会キ実施
② 直轄(中間)地区の車の移動
③ 北九州歩きを実施後
④ 直轄(中間)地区話し合い
音楽、食などイベントで紹介
資源循環型をいかに
具体的にいかす

筑後ブロック会キ

2度実施

① 新幹線開通に伴い
～地域SNSを活性化
筑後ミュージムとSNS
が共同で発信

② 福岡水産自販所インク
1077ルビークン
でつた
商品の試食を
イベントの共同・協働
おこなった
～いろんな場をのりて
発信したい!

筑豊ブロック会キ

2度団体実施
今泉コーディネーター
若人たちは高齢化
どうにか...

① YNHSなども参加
(高校生ら)
② 各団体のアンケートをもとに
意見を出さる

① YNHSなども参加
(高校生ら)
② 各団体のアンケートをもとに
意見を出さる

京築ブロック会キ

19団体 2度の話し合い

① フリーディスカッション
② 19団体
京築おどろきHP
の活用するまでに...

① フリーディスカッション
② 19団体
京築おどろきHP
の活用するまでに...

10年後の地域づくり

2009 地域資源活用
2010 連携のありかた

① 国連ハビタットと連携
② 人材育成 活動交流
③ 活動交流 実施

① 国連ハビタットと連携
② 人材育成 活動交流
③ 活動交流 実施

連携のメリット

① 個性
② 個性
③ 個性

① 個性
② 個性
③ 個性

筑後川流域連携

① ひとつの団体でできないこと
② 相手を知りあふ
③ 連携ファースト
モチベーションをあげる

① ひとつの団体でできないこと
② 相手を知りあふ
③ 連携ファースト
モチベーションをあげる

地域研究HP

① 活動発表の場になる
② 活動発表の場になる
③ 活動発表の場になる

① 活動発表の場になる
② 活動発表の場になる
③ 活動発表の場になる

●原賀氏(福岡県地域づくり
コーディネーター)によるまとめ

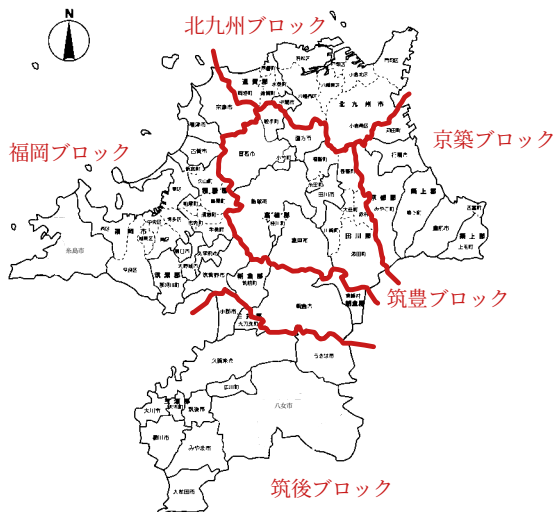


●ブロック別報告者(敬称略)

北九州ブロック	特定非営利活動法人	北九州青年みらい塾	代表理事	大内田佳介
福岡ブロック	糸島魅力みつけ隊ネットワーク協議会	等呼びかけ人		酒井忠彬
筑後ブロック	特定非営利活動法人	筑後川流域連携倶楽部	事務局長	鍋田康成
筑豊ブロック	特定非営利活動法人	住学協同機構筑豊地域づくりセンター	理事長	大塚洋一
京築ブロック	特定非営利活動法人	クリエイティブ・スローライフ	理事長	井下田清智

ブロック会議活動概要について

地域づくりネットワーク福岡県協議会では、平成20年度に組織を改編し、「北九州」「福岡」「筑後」「筑豊」「京築」の5ブロック体制としました。このブロックは県が推進する広域地域振興と同じエリアです。誌面の都合上ごく一部になりますが、ここでは平成22年度のブロック会議の活動概要を紹介します。



〔北九州ブロック〕

●H22.10.15(金)18:15～ KMMビル(北九州市小倉北区)

テーマ『様々な団体との連携による、こらからの地域づくり』

連携について、具体的なイメージをつかんでもらうため、会員団体であるNPO法人 北九州青年みらい塾が様々な企業、団体、大学等との連携により開催している『北九州ナイトツアー』ミニ版を実施し、参加団体に小倉のまち歩きを体験してもらった。

その後の会議では、

○地域の魅力はいろいろあるが、まず地域を歩いてみないと分からないことが多い。

○地域の魅力は、単独でPRするより、ナイトツアーのように連携した方がよい。

○他団体の取り組みを初めて知った。活動情報を共有し、相互参加することも大事。

というような「相互連携により、地域づくりを活性化したい」という意見が目立った。



●H23.2.25(金)19:00～ 水巻町中央公民館

テーマ『様々な団体との連携による、遠賀・中間地域の活性化』

遠賀・中間地域の市、町と福岡県が取り組んでいる広域連携プロジェクト（スポーツや花をテーマにした交流の促進、新たな特産品づくり、地域の魅力発信、生ゴミの堆肥化と堆肥活用による資源循環）を紹介した上で、プロジェクトを中心にどんな連携が考えられるか意見交換を行った。プロジェクト参加団体である遠賀町商工会、(社)ひびき青年会議所も参加。

○団体が得意とする音楽やまち歩きなど、出来ることを交流のイベント等に活かす。



○団体が独自に企画するイベントで、新たな地域の特産品を紹介する。

○「資源循環」の取り組みを通じ、環境系をはじめ、様々な団体の連携につなげる。

というような具体的な連携の可能性が多く出され、引き続き検討されることになった。

〔福岡ブロック〕

●H23.1.29(土)17:00～ 福岡市美野島商店街まちづくりショップ「ゆらりん」(福岡市博多区)

テーマ『地域づくり活動におけるこれからの連携について』

①情報発信について：福岡県協議会のHPで各団体の活動がリアルタイムで発信できるようにしたい（face book等活用）／団体のレベルに応じた情報の受発信に取り組む／団体の身の丈にあった、無理なく息長く、こまめに続けられる方法で情報発信

②活動拠点について：

パンフレットなどが設置でき、会議が開けること／大勢に情報発信する場合は福岡の中心部天神に、自分達の住んでいる



周辺地域に伝えたいということであれば、近くにあった方がよい／今後、既存の施設で利用できる場所等の情報を集約し、活動拠点について引き続き検討

③その他：まだお互いの活動内容を知らないケースが多く、来年度はみんなで集まる機会を増やしたい。

●H23.2.19(土)15:00～ 奈良屋公民館(福岡市博多区)
テーマ『組織を総点検！～明日からの行動目標づくり』

①ふくおかNPOセンター・古賀桃子氏からの話題提供

○市民グループの組織構造のイメージは「木」。木が根から水分や養分を採っていくように、小さな活動であっても、次第に応援してくれる方や共感を寄せてくれる方が増えてくる。

○信頼されるNPOの7つの条件：明確なミッションを持ち、継続的な事業展開をしていること／特定の経営資源のみに依存せず、財政面で独立していること／事業計画・予算の意思決定において自律性を堅持していること／事業報告・会計報告などの情報を積極的に公開していること／組織が市民に開かれ、その支持と参加を集めていること／最低限の事務局体制が整備されていること／新しい仕組みや社会的な価値を生み出すメッセージを発信していること。

○いきいきとした組織の共通点：ビジョン・ミッションが内外に分かりやすく共有されていること／人を活かす、人が活きる仕組みがあること／会費、自主事業、寄付金、受託事業、助成金及び補助金といった資金源が多様であること。

○最も必要な資源：「人材」と「時間」。

②グループワークの実施
参加者が所属する組織の悩みについて、グループ別に意見交換。



〔筑後ブロック〕

●H22.12.9(木)14:00～ 久留米リサーチパーク
テーマ『団体情報の発信とネットワークづくり』

福岡県と筑後地域の12市町で構成する筑後田園都市推進評議会は、九州新幹線全線開業により、通勤通学の利便性が向上する筑後地域への定住を促進するため

に、筑後スローフードフェスタやちくご子どもキャンパスの情報に加え、筑後地域の住み良さ・暮らしやすさに関する情報を集約したポータルサイトを制作。地域づくり団体においても、ポータルサイト



上で情報発信を行う。また、筑後田園都市推進評議会が運用する地域SNSについて、顔を合わせる会議の場以外でも、情報交換を行えるようにするためのツールとして利用していく。このことについて、事務局から概要説明を行い、参加者が発信したい情報等について意見を交わした。

●H23.2.26(土)13:00～「久留米スカラ座」・久留米大学 テーマ：会員団体の活動紹介及びパワフルちくご等への参加

「パワフルちくご」は、筑後地域雇用創造協議会が行う事業総括イベント。この協議会は、商売繁盛のスキルを身につけることで、雇用を創出することが目的。地域の特色を生かした商品もある。「ふくおか水もり自慢in筑後」は、福岡県内の水環境保全に関わる団体や関係機関が交流することで、パートナーシップを促進し、他の団体の活動状況や手法を学ぶために開催。「パワフルちくご」と「ふくおか水もり自慢in筑後」の同日開催で、2つのイベントの参加者間の新しい繋がりがアイデアが誕生する。これら2つのイベントを通じて、団体の活動紹介や意見交換を行ったところ、活動のアイデア等を多数得ることができた。



〔筑豊ブロック〕

●H23.1.13(木)18:00～ 遠賀川水辺館 テーマ『団体の連携、交流の可能性を探る』

連携に至るには、お互いの活動を知ることが重要。まずは各団体の活動をパネル、パワーポイント、寸劇で楽しく紹介。その後、団体の得意分野、抱える課題について、事前にアンケートにより整理した一覧表を使って、補充・補完・補強による連携・協力の可能性について議論を行った。

○具体的な「連携・協力の可能性」：人材面では、団体に若い人がいる団体とない団体の連携や、会員の職種（行政・企業・大学関係等）が豊富な団体や筑豊地域内に広く会員がいる団体等と、会員の職種や年齢層等に偏りがある団体とが連携することで、人材を補うことが可能。またIT関連に詳しい団体が、協議会メンバーを対象に学習会を開催することで、インターネットの活用による情報交流が進む。

○まとめ：他の団体の活動報告や、団体の得意分野、不得意分野について、その概要がわかったことで、団体相互の連携・協力の可能性が広がった。



●H23.2.17(木)18:00～ 飯塚市立岩公民館 テーマ『団体の連携、エリアを越えた連携の可能性』 ～お悩み相談みんなで解決型(情報発信)～

○地域づくり団体活動の情報発信不足への対応

- ・パネルやA4ファイルの冊子による発信。
- ・団体のIT講師による講習会開催。
- ・フォトフレームを活用した団体活動の情報発信。
- ・道の駅や行政施設等への情報物の設置

団体PR用に「のぼり旗」や「パネル」を作ろう／筑豊ブロックと記入された共通のネームプレートを首から下げよう／団体の名前が入ったバンダナを着けてPRしている／団体の会報にて物品の寄付を呼び掛けると、寄付してもらえることがあり、会報が読まれているという実感もある／活動期間が長くなると、息切れしてくるので、活動に対する熱い思いを自慢する場があっても良い／活動の報告・PR・意気込みなどを記載した筑豊ブロックの会報を作成してはどうか／ITも大切だが、人と人が出会い、知り合い、協力し合う「和の心」を持ち合うことも大切／地域づくりネットワーク福岡県協議会は、ブロック別に活動が活発化しつつあるので、これを継続して欲しい。

〔京築ブロック〕

●H22.12.20(月)15:00～ 行橋総合庁舎 テーマ『京築地域の振興に私たち市民団体が手をつなぎできることは？』

①～県と手をつなぎ、やってきたこと「豊の国エコ ミュージアムから京築応援団まで」
(原賀いずみ氏)～



②5グループによるワークショップの結果

A班：すでに知名度の高い団体（大楠会）のイベントと組み合わせて、京築地域を巡り、各地の市民団体の活動を紹介するイベントツアーの提案

B班：京築地域を巡り、地域資源（特産品や文化財など）を紹介する「ふるさとウォーキング」の提案

C班：地域の主役づくりを通じた地域活性化の提案

D班：京築地域の宝である「民話」をテーマとした共同勉強会・情報発信、「地域の〇〇名人」の養成・人材バンクづくり、芸術をテーマとしたまちづくり提案

E班：京築地域が京築地域づくり自慢大会（プレゼンテーション、ディスカッション、パネル展示、表彰）の開催による地域間の交流促進、地域交流団体として共同事業や活動発表会（年1回）の実施・会報誌による活動紹介（年4回）。以上写真は表紙に掲載

●H23.2.21(月)15:00～ 行橋市コミュニティセンター

テーマ『お互いを知って、ゆるやかに繋がり、協働で京築を元気にしよう』～情報の共有・発信について考える～

団体の活動情報を互いに共有・発信するため、各団体1名をKDとして登録し、京築地域の情報発信サイト「京築まるごとナビ」に投稿／団体の活動PRのため、団体活動パネル（B2サイズ等）を作成し、行政施設や道の駅等でのパネル展示／団体間の交流・連携を深めるほか、地域での認知度を高めるため、京築ブロック登録団体のプロフィールやパンフレット等を綴じ込んだA4ファイルを作成し、各団体や行政、道の駅に設置／活動写真の提供が可能な団体は、写真を持ち寄り、デジタルフォトフレームで団体活動の紹介を行い行政機関や道の駅に設置／道の駅を各地域の地域づくり活動の情報発信拠点として活用するために、道の駅の駅長との意見交換会を行う／団体の活動を発信できる技術を学ぶため、ITに詳しいものが所属する団体や地域の若者の協力を得て、IT研修会を開催

👉 第3回 ふくおか地域づくり活動賞

平成20年度に始まった「ふくおか地域づくり活動賞」。この賞は、福岡県内の地域づくり団体の中で、特に活動状況が顕著である団体を顕彰するというものです。平成22年度のグランプリ（知事賞）は「筑後川まると博物館運営委員会」に、奨励賞等は「特定非営利活動法人タウン・コンパス」「特定非営利活動法人門司まちづくり21世紀の会」の両団体に、ふくおか地域づくり活動賞は以下の団体にそれぞれ決定し、平成23年3月6日、福岡国際会議場で開催された、ふくおか地域づくりフォーラムの中で授賞式が行われました。



グランプリ：筑後川まると博物館運営委員会

奨励賞：特定非営利活動法人タウン・コンパス

奨励賞：特定非営利活動法人門司まちづくり21世紀の会

受賞者による発表

【後列】「活動賞」受賞団体代表出席者



協議会福岡ブロック協議会長（特定非営利活動法人NPO博多まちづくり代表）

協議会副会長（県広域地域振興課長）

「奨励賞」受賞団体代表出席者（特定非営利活動法人門司まちづくり21世紀の会）

「グランプリ」受賞団体代表出席者（筑後川まると博物館運営委員会）

「奨励賞」受賞団体代表出席者（特定非営利活動法人タウン・コンパス）

協議会会長（県企画・地域振興部長）

協議会副会長（「住学協同機構筑豊地域づくりセンター」理事長）

●グランプリ〔知事賞〕：特定非営利活動法人 筑後川まると博物館運営委員会

筑後川全体を「ひとつの博物館」ととらえ、流域の河川環境を良くするための多様な参加型講座・イベント等を実施しており、流域の4県にまたがる活動地域の広範さや、幅広い世代の参加・協力を得て「後世に活動を引き継ぐこと（人材育成）」にも配慮していることが、高く評価されました。

●奨励賞〔協議会会長賞〕

【特定非営利活動法人タウン・コンパス】

博多湾・那珂川への水上交通導入、里山における放置竹林整備、環境及び公共交通に優しい高速道路整備の提言という、複数の地域課題に対する具体的な取組をしており、特に水上交通では、行政などの関係機関とも共同して施策を具体化させていることが評価されました。

【特定非営利活動法人門司まちづくり21世紀の会】

組織発足以降、四半世紀もの長きにわたり門司港地区の活性化のために、関門海峡花火大会をはじめとする幅広い活動を実施してその中心的役割を果たしていることや、法人会員が多いことなど組織運営面での堅実性・着実性が評価されました。

●ふくおか地域づくり活動賞

団体名	活動概要
唐津街道姪浜まちづくり協議会	古い町屋・寺社等が残る唐津街道沿い（旧姪浜宿周辺）のまちづくり資源を調査し、地域内外にその魅力を発信し、地域固有の街並みを活かしたまちづくりを推進するため、マップ作成・街並みウォッチング・講演会・コンサート・パネル展等の幅広い活動を実施し、「姪浜ブランド」の構築を図っている。
田川地域観光推進会議	田川地域の市町村の枠組みを超えた活性化のため、産・官・学・民協働により、ボランティア委員が中心となって、人材の発掘、PRツール作成などの情報発信、旅行商品の提案などを通じて、観光振興を産業の基軸とした地域活性化に取り組んでいる。
筑豊近代遺産研究会	田川市・石炭博物館、直方市・石炭記念館、宮若市・歴史資料館等が連携して開催したシンポジウムを契機に、近代遺産の調査研究、その成果の刊行及び地域の諸団体と連携した地域おこし等を通じて、「筑豊は一つ」という目標を地域住民が実感できる活動を推進している。
茶屋の原団地自治区会ふれあい朝市	地域の高齢化の進行及び郊外大型店舗の進出によるスーパーの閉店による日々の買い物に不便する状態を受けて、買い物難民化の防止、ふれあいの場の提供、地域の自助・共助の仕組みの確立、健康づくりなどのため、元のスーパーの軒先を借りて「ふれあい朝市」を平成21年から、週1回のペースで開催。

団体名	活動概要
(特)大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ	大牟田市・荒尾市一带を中心に操業された三井三池炭鉱の遺産をまちづくりに生かし、「炭鉱のまちの風景と心象を次世代に継承しよう」という目的のもと、ウォーキングツアー、宮原坑の定期公開、「文化の日」近代化遺産一斉公開、「ちくご子どもキャンパス」ワークショップ、「万田抗市民まつり」イベントを実施している。
(特)北九州COSMOSクラブ	建築・都市計画の専門家集団としてまちづくりに貢献するため、パソコンを利用したCAD（コンピュータ支援設計）の研鑽・情報交換等を通じて、CAD普及、技術の向上及びまちづくり活動を実施。主に、北九州市（若松区、小倉北区など）における歴史的建造物の保存・活用等のための実測・歴史調査、「洞海湾無料連絡船」の運行等に取り組んでいる。
(特)グラウンドワーク福岡	「誰もが幸せに暮らしていける22世紀の地域社会を築く」の目標のもと、環境改善・環境教育・福祉啓発・国際交流の分野で県内全域で活動を展開している。（特に、矢部川流域連携ワークショップ、星野村プロジェクトなど、八女・奥八女地域にて多くの活動を実施。）最近でも、八女市上陽町施設（「ほたと石橋の館」など）の指定管理受託や、歴史ある古民家の再生、過疎地域の生活支援、中山間地の再生、地域資源の発見・活用のための多様な事業を展開中である。
豊の国海幸山幸ネット	地域の歴史的景観保全の意義を学び合い、行橋市民に景観保全の大切さを伝える活動を実施。最近では、スローライフ・エコロジー・地産地消、京築神楽などの普及・啓発に関する事業や、県と協働した「京築応援団新聞」の編集なども実施している。
ふくま郷づくりの会 子育て支援部会 わくわくプレーパーク	「大人が学びあい、手をつないで、子どもが生き生きと豊かに育つ『場』をつくること」を目指して、「子どもと大人の冒険遊び場 わくわくプレーパーク」（主に小学生向けの「子どもの遊び場」づくり）及び「子育てサロン わくわくひろば」（就学前の子及び保護者の交流促進）の事業及び環境関係団体との共同による「西郷川生き物調べ」等の活動を実施している。
ゆくはし健幸つなぎ隊	健やかで幸せなまちづくりを目指す「ゆくはし健幸プラン」に基づき、地域住民や関係団体と協力して各種の研修会・ワークショップ・ウォーキング・食育体験・人形劇などの多様なイベント等を開催し、市民が「健幸に」暮らせるような活動を推進している。

以上10団体（団体名：アイウエオ順） ＊(特)：特定非営利活動法人

《グランプリ〔知事賞〕／特定非営利活動法人 筑後川まると博物館運営委員会》

1. 筑後川まると博物館とは

筑後川まると博物館運営委員会 設立：2003年3月

- 目的：**①筑後川流域の自然、文化、歴史、産業などの地域のタカラモノをありのままに、そのまま「ひとつの博物館」とみなし、地域のさまざまな学習の場とする。
②流域住民、活動団体とネットワークで結び 筑後川流域の環境向上につなげる。
③地域の資源を生かしながら、地域の活性化を目指し、筑後川流域圏全体の再生につなげる。

構成員：

第1期～9期
学芸員55人
流域内
約50団体



筑後川新聞の編集

年間6回隔月発行25,000部
8ページフルカラー



- 流域を網羅する地域の情報紙
- 旬の話題・流域の活動情報満載！
- すべて自主取材
- 記者は学芸員

平成17年度「全国地域づくり誌コンテスト」優秀賞受賞

ちくご川キッズ探検隊（子供たちの環境活動支援）

- 2005年7月より活動を始め、毎月1回程度の活動
- 小、中学生ならだれでも参加できる「こどもエコクラブ」
- 筑後川発見館くめウスを基地に、筑後川流域が活動フィールド
- 流域の自然や生物、私達のまわりの環境などの学習や体験活動
- 2010年度までの登録隊員は、延べ小学生100人



独自の人材育成システム・学芸員養成講座

ボランティア

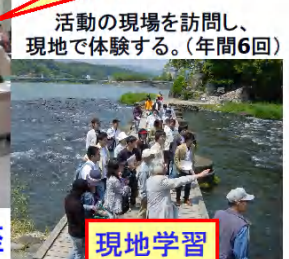
おかげさまで10周年



久留米大学市民公開講座

流域講座(筑後川流域経済論)を2001年より実施

市民も自由に聞けます。(学芸員養成講座を兼ねています。)年間通算28講座
前期は4月、後期は9月より毎週月曜16時40分～18時10分 受講無料



現地学習



福岡県協議会のHP

<http://www.chiikinet-fuku.org/>

《地域づくりネットワーク福岡県協議会の活動とは？》

会員団体等に対し、次の活動を行っています。

- 1) 地域づくりコーディネーターによる地域づくり活動へのアドバイスや情報提供。
- 2) 協議会会報（本誌）やホームページを通じた広報活動。
- 3) 研修交流会（講演会・パネルディスカッションなど）の開催による、他の地域づくり団体との交流機会の提供。

地域づくりのアイデア ～その3～



●視点をえてデジタルカメラをしよう●

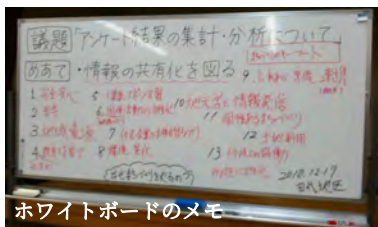
【地域づくりに活かす、目からウロコ のデジタルカメラの使い方】

地域づくりには、活動記録を残すためのカメラが欠かせない。使用するカメラはデジタルカメラ。撮影に失敗したら何回でも取り直しができるから大変便利。最近の携帯電話はカメラ付きがほとんどで、専用のデジタルカメラを持っていなくても、簡単に写真が撮れる。しかもメールに添付して、遠くの友人にすぐに送れるから、こちらの状況を伝えやすい。しかしこのカメラ機能、視点をえて使えば、日常の生活や地域づくり活動は、一段と楽しくなる。

【1】カメラに付いた機能を有効に使うことから話そう。記念撮影は誰でも経験あるだろう。あとで後悔するのが、目を閉じた人がいた場合。その写真を使えばその人に悪いし、とはいっても他にはないし・・・。解決策としては撮影時に連写機能を使えば良い。私は記念撮影時の人数が多いときは、10枚以上連写で撮る。それだけ撮っていれば1枚ぐらいいは使えるモノは出てくる。使用しないものは後で消せば良いから、遠慮無く撮ること。次はタイマーの使用。会議の風景、参加人数、参加者がわかるように、少し離れた上の位置からタイマーをセットして写真を撮る。最低でも前と後ろの二方向から写すと良い。10秒程度でシャッターが下りるので、その間に机に戻る。ミニ三脚は今では100円ショップでも購入可能。撮影するときは、会議名、日付、場所等をホワイトボードに記入し、部屋の時計が入るように。説明者が書いたホワイトボードの文字や絵もカメラに収め、後でプリントアウトすればノート代わりにもなる。ノートに書く時間を割き、説明者の話に集中することが出来る。カメラに望遠機能が付いていれば、かなり遠くからでも撮影は可能だ。カメラブレさせないためには、手ブレ防止機能が付いたものもあるが、それだけでは不安という人は、カメラに付いた首ヒモを首に回し、椅子で背中を固定し、手を伸ばして撮るとブレ難いから挑戦してみよう。



会議風景の写真



ホワイトボードのメモ

【2】カメラの活用方法についての紹介。地域づくり関連の使用アイデアとしては、以下の活用法が考えられる

- 記録に残したい新聞記事や週刊誌を切り抜く代わりに（喫茶店等でも）
- 書籍のコピーに代わって
- ちょっとしたメモや会議のレジメや資料等を
- パソコンの画面を（地図や文字など印刷するまでもないモノを）
- パソコンやプリンターなどのIT機器を（メーカー、機種、インクの種類などがわかるように）
- パソコンソフトを購入時にシリアルNO、ユーザーIDなどを（その日に撮れば購入日も写真のプロパティを見れば一目瞭然）



セットの部品一式

●修理の場合に備えてIT機器などを購入した日に付属品とともに並べて（本体とコードなど、どれとどれがセットだったか後で見れば良くわかる）

●書類や書籍を貸し借りするときに（返却時に写真で確認し、すべて返却されれば消したり、返却済みとする）

●交換した名刺を（今の最新の携帯では写真を撮れば自動的に文字情報となり、パソコンでの管理が可能）

●年賀状や暑中見舞いなどのはがきは複数並べて

●訪問先の廊下にある席次表を

●通帳の表紙と裏面を（銀行名、NO、名義など）

●使用する車のプレートNO等を

●会議やシンポジウム開催時、集めた参加金額がわかるように（お札や小銭の全部を）

●懇親会で残ったお金を（人物の記念撮影と一緒にすれば、いつ、誰が参加し、いくら残ったかがわかる）

●消えなかった神社等の絵馬を（月日の経過とともに消えていく）など。これ以外にも、安全・安心なまちづくり10景として、窓から見守っている様子、青色パトカーを使用している見守り風景、子ども110ばんの家での見守り風景、通学路に立っている見守り風景等、様々な見守り風景を写真に収め、1枚のポスターで屋外で紹介すれば、不審者は地域の見守り力に驚き、その地域には出没しないかもしれない。またまちを歩いているときに、気に入ったものがあれば撮影し、個人の写真素材集としてストックしておくが良い。



ユニークな名刺



通帳



窓からの見守り風景



玄関前の小石



未完成

また日常生活では、次のような活用が考えられる。

●買い物前に冷蔵庫の中を

●頂いた（お送りした）中元や歳暮をその名前と共に（何年に何を頂いたり、お送りしたかがわかる）

●学校や自宅等で作った子どもや孫の（あるいは自分の）作品を

●訪れた先の帰りのバスや列車の時刻表を

●レストランや食堂のメニューを（次回行くときの参考に）

●持っている服や靴を（今度はどんな服や靴にしようか）

●定期的な車の走行メーターを

●オイル交換した日の車の走行距離を

●気に入った髪型を（カットサロンでみせる）

●いろんな器具等の説明書を

●賞状や通信簿を

●免許書、個人の通帳、年金記録簿等を

●飲食店で残りのボトルキープの量を こうした使い方から新たな活用法が誕生するかもしれない。ぜひ挑戦してみよう！



冷蔵庫の中

※文）福岡県地域づくりコーディネーター 今泉 重敏

【発行】地域づくりネットワーク福岡県協議会

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7

福岡県庁 広域地域振興課 地域振興1班

TEL:092-643-3179（ダイヤルイン） FAX:092-643-3164

<http://www.chiikinet-fuku.org/>